

ペルゴラミネートフロア 施工マニュアル

お施主様控

LAM-2.0 (2021.1.6 改訂)



施工者様へ

ペルゴラミネートフロアは「フローティング工法」で施工する、全く新しい床材ですので必ず本書をお読み下さい。

禁止事項

製品の性能低下や不具合が発生する恐れがあります。

- ※フロアを下地に固定しない
- ※フロア端部にクリアランスを設ける (クリアランスへのコーキング禁止)
- ※350 kg/m²以上の重量物を置かない (フロア上への間仕切壁設置 NG)

免責事項

本書の記載内容を遵守しなかったことで生じた損害 (不具合、逸失利益等) 及び、これにより生じた二次的な損害は、当社として一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

配送業者様へのお願い

必ず本書を施工者様へお渡し下さい

- ※角が傷つきやすいため搬入中の荷扱いには十分注意してください。
平置き必須、立てかけ NG

【ペルゴラミネートフロア】 施工マニュアル お施主様用取扱説明書



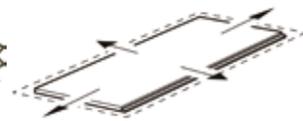
この度は(株)北洲ペルゴラミネートフロアをご購入いただき、誠にありがとうございます。

フローティング工法での注意・禁止事項

ペルゴラミネートフロアは、気温や湿度の変化に伴う自然の膨張、収縮に対応できるよう、置き敷き工法（フローティング工法）で設置して下さい。置き敷き工法の利点を得るため、また隙間や軋み音が生じないように以下の注意事項をご確認下さい。
注意事項を守って施工しないと、製品の性能低下や不具合が発生する恐れがあります。

フローティング工法の床は面全体で「伸縮」します

ペルゴラミネートフロアは湿度を吸収したり、放出したりして伸縮を繰り返します。



乾燥している時 ← 気候や・地域や・季節によって → 湿度が高い時

本取扱説明書には製品を長く、安心してご使用いただくために重要な内容を記載しています。
製品ご使用前に内容をお読みいただき、注意事項を遵守していただきますようお願い申し上げます。
また、本取扱説明書は製品の施工、ご使用の上で重要な書類ですので、大切に保管してください。

目次

P1	フローティング工法での注意・禁止事項	P10	フロアの設置 STEP7
P2	施工チャート	P11	フロアの設置 2
P3	施工手順 STEP1/STEP2/STEP3	P12	収まりの例
P4	クリアランス関連部材 1	P13	スペーサーの取外し STEP8
P5	クリアランス関連部材 2		ドア枠・巾木の取付 STEP9
P6	下地状況の確認 STEP4		床の養生 STEP10
P7	下地状況の確認 STEP4	P14	メンテナンス補修ガイド
P8	不陸調整シートの敷き込み STEP5	P15	美装作業・元請工事業者様への注意事項
P9	スペーサーの設置 STEP6	P16	商品情報・会社情報



施工チャート

STEP-1

商品の搬入

●商品の搬入

STEP-2

道具の準備

●必要な道具、工具を準備

STEP-3

部材の寸法を確認

●部材の寸法を把握し、
割り付けをシミュレーション

STEP-4

下地状況の確認

●下地に不具合（不陸など）が無いか入念に確認

STEP-5

不陸調整シート敷き込み

●不陸調整シートが重ならないよう注意して敷き込む

STEP-6

スペーサーの設置

●適正なクリアランスを確保

STEP-7

フロアの敷き込み

●糊、釘を使わずにフロアをはめ込む

STEP-8

スペーサーの取り外し

●適正にクリアランスを確保できているか再確認してスペーサーを取り外す

STEP-9

巾木の取り付け

●フロアを押し付けないよう注意して巾木を設置

STEP-10

床の養生

●完成後の状態を保守できるよう、入念に養生

施工手順



STEP-1

商品の搬入

●商品の搬入



※当製品は、**角が傷つきやすい**ため
搬入中・施工中の荷扱いには十分注意してください。

※傷ついたまま施工すると目違い、欠けの原因となりますので
取り除いて施工してください。

※現場・倉庫での保管はパレット・台木の上に載せ、地面には直接
置かないでください。また、シート等できちんと養生してください。
下地に直接置く場合は下地が濡れていないか確認して下さい。
濡れている場合は直接置かないでください。

※商品は立てかけずに
平置きしてください。

※商品は 48 時間前に現場に納入し、施工に最適な温度環境 (18 ~ 22℃)
に馴染ませからご使用ください。

※開封時に重要な損傷が認められる場合は、商品到着後 24 時間以内に
購入先に連絡しその材を使用しないでください。

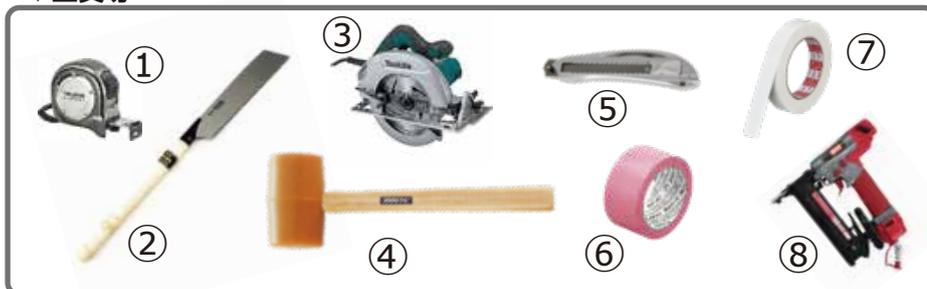
STEP-2

道具の準備

●必要な道具、工具を準備



▼工具等



▼施工キット (別売)



+

- ①スケール ②手鋸 ③電動丸鋸 ④フローリングハンマー
⑤カッターナイフ ⑥養生テープ ⑦両面テープ
⑧フロアタッカー (※見切取付用 フィニッシュネイルでも可)

- ⑨当て木
⑩スペーサー
⑪引き寄せ金具

STEP-3

部材の寸法を確認

●部材の寸法を把握し、
割り付けをシミュレーション



▼フロア本体

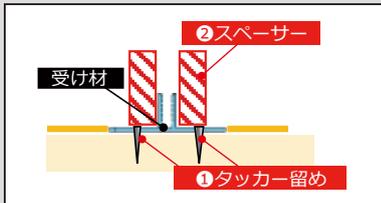


▼不陸調整シート

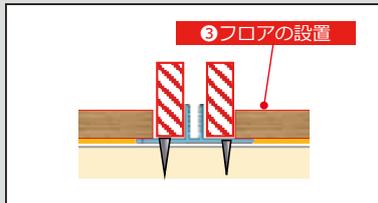


T 型床見切

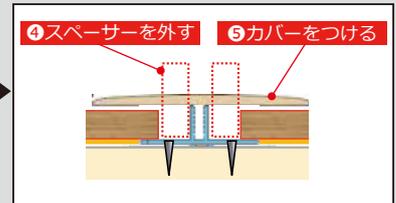
★建具の下などで見切りを使う際は【T 型床見切】を使用します。



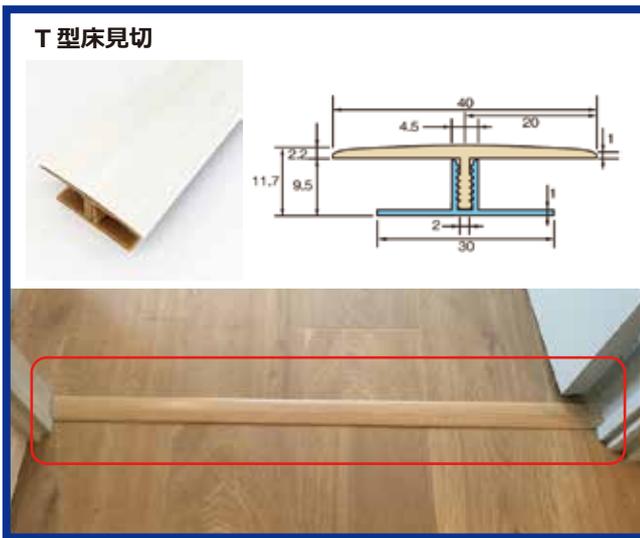
▲見切りの受け材を留めスペーサーを設置します。



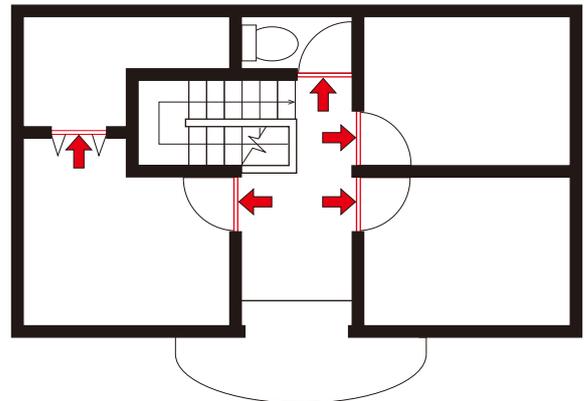
▲フロアを設置します。



▲スペーサーを外しカバーを付けます。



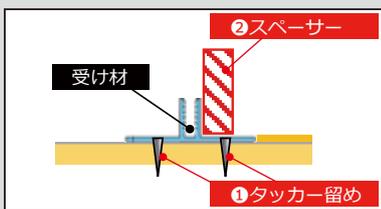
■使用例



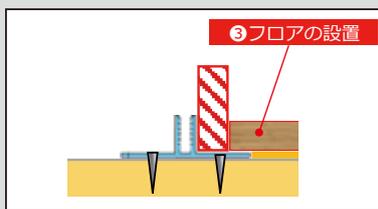
※最大ロングスパンの範囲内でもくびれた個所に見切材を設置することでサネ鳴りや目違い等の不具合を防げます。

段差見切

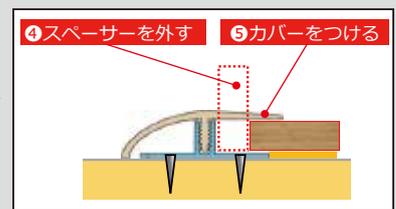
★リフォームなどで段差が生じる際は【段差見切】を使用します。



▲見切りの受け材を留めスペーサーを設置します。

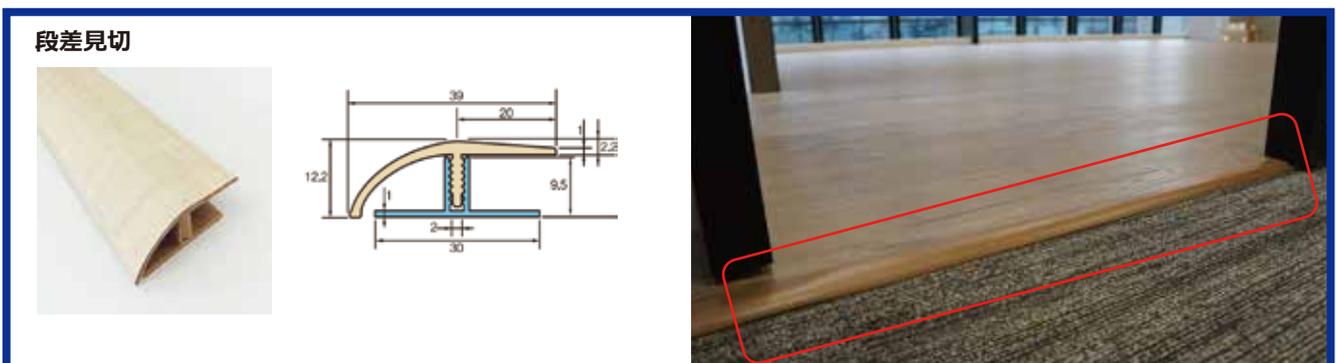


▲フロアを設置します。



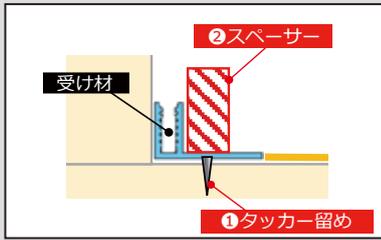
▲スペーサーを外し、カバーを付けます。

※『スペーサー』にはフロアの端材（8mm厚）をお使いください。

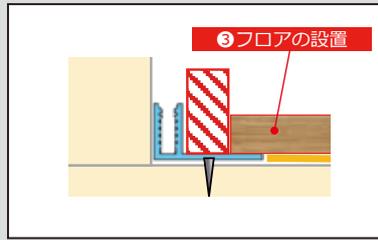


L 型床見切

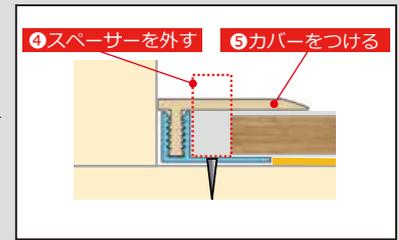
★突き付け部分や壁面にクリアランスを設ける際は【L 型床見切】を使用します。



▲見切りの受け材を留めスペーサーを設置します。

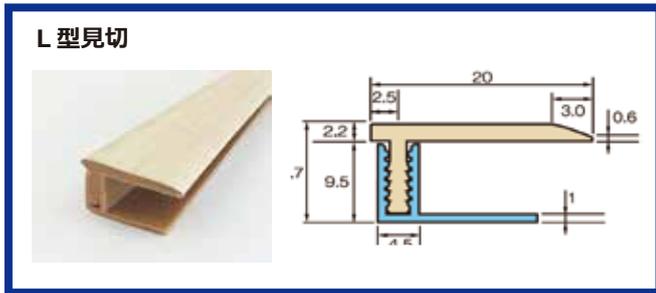


▲フロアを設置します。

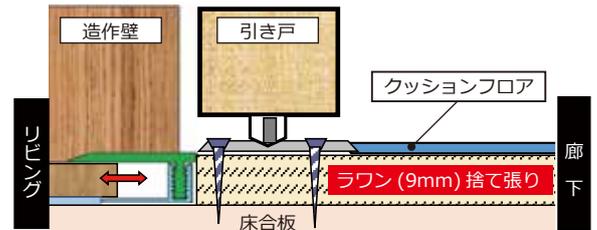


▲スペーサーを外し、カバーを付けます。

※『スペーサー』にはフロアの端材（8mm厚）をお使いください。



リビングと脱衣所

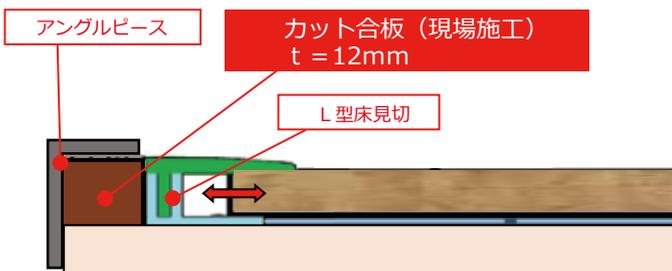
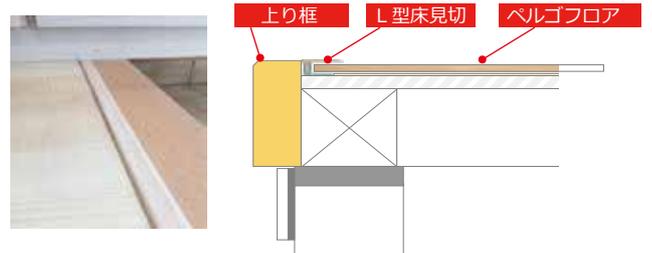


※フラットレールとの取り合いにはL型見切りを 사용합니다。
▲見切りの受け材を留めスペーサーを設置します。

掃き出しサッシ (アングルピース)



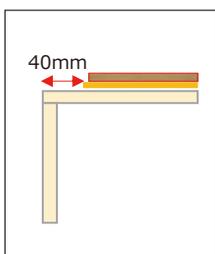
他社の上り框を使用する場合



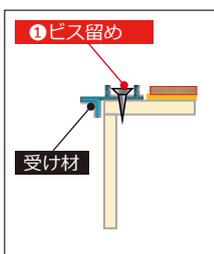
※カット合板は現場で加工してください。

上り框

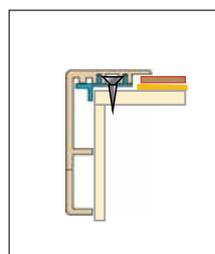
★玄関には樹脂製の【上り框】を使用します。(※当製品を使用しない納まりもございます)
その他の「見切」とは異なり、受け材は「ビス」で留め付けてください。



▲角から40mm確保



▲受け材をビス留め



▲カバーを付けます。



玄関の上り框として使用します。

※上り框以外の見切材の受け材はタッカー以外にも両面テープやボンドで固定することが可能です。

※見切材の受け材はABS樹脂製です。両面テープやボンドで固定する際は下地と受け材の材料にあった製品をご使用下さい。



1

下地の厚みは **12mm以上** ありますか？



※スラブ以外の下地には必ず 12mm 以上の合板を施工してください。根太の上に直接フロアは施工できません。

2

下地が**乾燥**していますか？



※未乾燥の下地に施工すると、フロアにカビや反りが発生する恐れがあります。

3

下地に**不陸**は無いですか？



※1mに対して $\pm 1.5\text{mm}$ 以下の不陸であれば問題ありません。畳の上やカーペットの上の施工は避けてください。ただし、一部の商品に限り毛足の短いカーペットやスタイロタタミなどの上から施工できます。特殊な環境下で施工される場合は、ご使用用途をメーカーにお問い合わせください。

4

下地から**釘頭**は出ていませんか？



※釘頭等が突出していないか確認し、是正した上で施工してください。

5

下地の**掃除**は終わりましたか？



全て問題が無ければ次頁へ



- ▼シートは下地に応じた製品を敷いてください。
シートの裏表は、シートをそのまま転がして敷けば裏表が合うようになっています。

シートの
使い分け

- ・RC スラブ
- ・床暖房

デュプレックスシート

上側

下側

- ・木質系下地
(床暖房無し)

クッションシート

上側

下側

- ▼シート同士は必ず『突きつけ』にしてください。重ね代を設けるのはNGです。
めくれてしまわないよう、養生テープで留めてください。



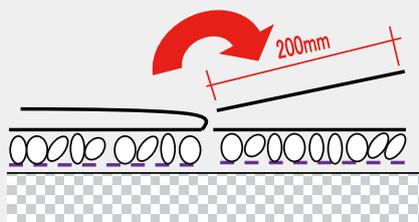
養生テープ

突きつけ

重ね

▼デュプレックスシート施工の場合

デュプレックスシートの長辺側には 200 mm の防湿シートが折りたたまれています。
スラブから湿気が上がりますので必ず防湿シートを重ねて養生テープでしっかりと繋ぎ合わせてください。コンクリートスラブ直の場合以外は防湿シートを重ねる必要はありません。



養生テープ

突きつけ

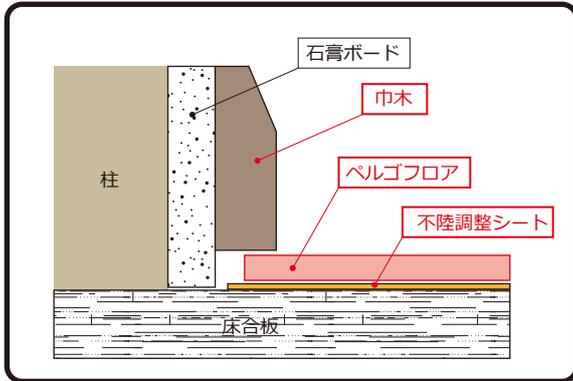
防湿シート

重ねる



基本的な納まり

▼基本的な納まり

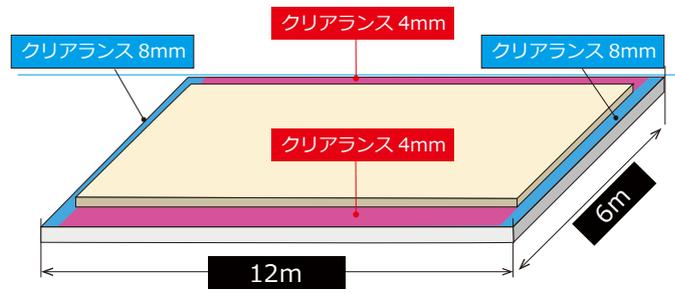


※石膏ボードを上げ、クリアランスを確保する方法もあります。

▼クリアランスの寸法は下表を参照の事。

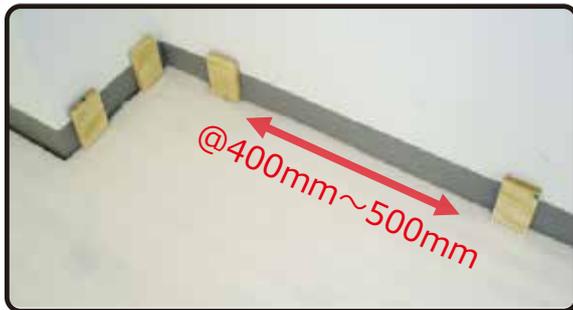
部屋の1辺の長さ	クリアランス
8m未満	片側4mm以上
8m～13m未満	片側8mm以上
13m以上	T型見切り材で縁を切る

(例) 12×6mの部屋の場合



▼フロア材は玄関ホールや廊下などの狭小部での設置の場合
クリアランスを確保し過ぎると、片側にずれて隙間が生じる
事があります、ご注意ください。

▼スペーサーの設置間隔は400mm～500mmです。



▼現場の端材をスペーサー代わりにお使い
いただいても問題ございません。



【クリアランスについて】

- ◆本製品は木質系のフロアである為、加工した後も室内の温湿度環境に応じ、伸縮が発生いたします。
- ◆その為、すべての方向に『クリアランス』(調整幅)が必要です。
適切にクリアランスを確保しない場合、フロアの浮き、突き上げ、床鳴りといった不具合の原因になります。
- ◆コーキングによるクリアランス確保は、以下5点により不可といたします。
 - ・コーキング自体の硬化により、適正なクリアランスが確保出来ない。
 - ・伸縮した際に、コーキング自体が盛り上がり、つまづきの原因となったり、コーキング切れの原因となる。
 - ・コーキングの油分により、汚れの付着やシミの要因となる。
 - ・見切は、下地に固定した見切ベースとフロアを挟んで固定するので、フロア端部を上から抑えることが出来ますがコーキングはその上からの固定が出来ずに浮きの原因になる。
 - ・経年変化による硬化や汚れ、コーキング切れ、ひび割れ等の発生により、定期的なメンテナンスを要する。
- ◆クリアランス確保の際に仮釘などを使用した場合は、施工後に必ず取り外してください。
- ◆配管の周囲は配管形状に合わせたクリアランスを確保してください。配管周囲は結露などにより、基材に悪影響を及ぼす可能性がある為、切断面にはシーラー処理を施してください。

【フロアの固定について】

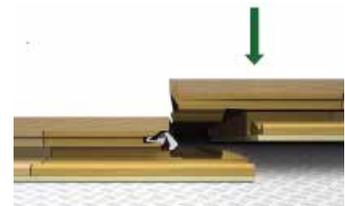
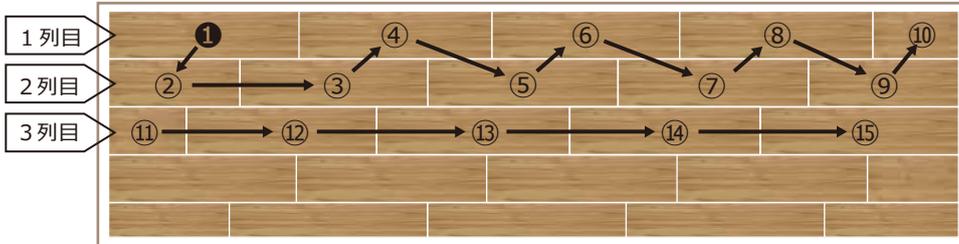
- ◆本製品は木質系のフロアである為、加工した後も室内の温湿度環境に応じ、伸縮が発生いたします。
- ◆フロアに直接ビスや釘を打つとフロアの伸縮を妨げ、フロアの浮き、突き上げ、床鳴り、目隙と言った不具合の原因になります。
- ◆ビスで器具などを固定する場合はフロアの厚みと、不陸調整シートの厚みの合計値(10mm)より短いビスで固定するか施工前にビス径より2～3mm大きな下穴を空けてからビスで固定して下さい。
この時にフロアの伸縮が妨げられるほど固定し過ぎないようにして下さい。
但し、間仕切り壁や、造作家具等の重量物を同様の方法で施工すると伸縮を妨げ、不具合の発生原因となる場合があります。



※当製品はフローティング工法（置き敷き施工）の床材です。
 糊や釘は使用しないでください。

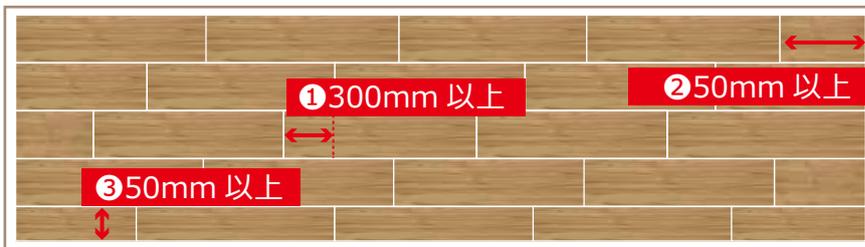


1、部屋の左端を貼り始めとし、1列目、2列目は互い違いに貼ってください。



ドロップダウン

2、以下①～③の寸法を必ず確保してください。



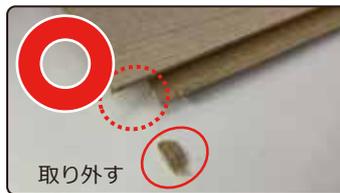
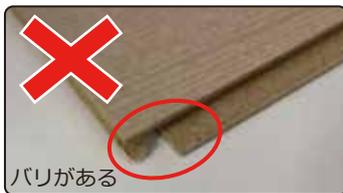
ドロップダウン以外にも2種類の
 貼り方があります。
 上記QRコードでご確認下さい。

3、必ずフロアの状況（サネの外れはないか？バリが無いか？）をチェックしながら施工してください。

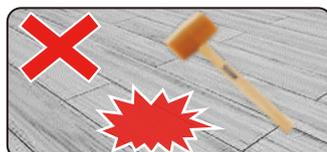


異常が無いか？
 を確認し施工してください。

※短辺のバリや、プラスチックサネが欠損
 した状態や、施工すると、不具合の原因
 となります。



4、はめ込みは以下の要領で行ってください。

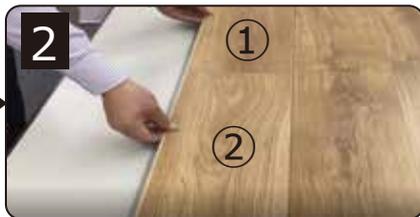


※ゴムハンマーでフロアを寄せたり、短辺のサネをはめ込む際は、サネ付近を
 叩かないように注意して下さい。強く叩きすぎると、サネが破損して目違いや、
 床鳴り等の原因となります。

5、1度貼ったフロアの取り外しは、以下の要領で行ってください。



②のフロアを1枚だけ外す場合



列全体を持ち上げます。



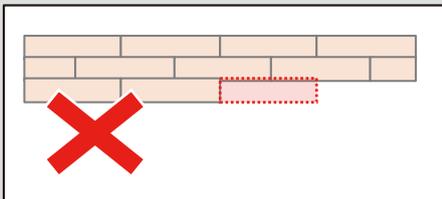
一旦引き寄せて



プラスチックが付いていない側のフロアを持ち上げて



フロアを取り外します。



※ 1枚だけを持ち上げて外しますと、内部割れサネの破損に繋がります。

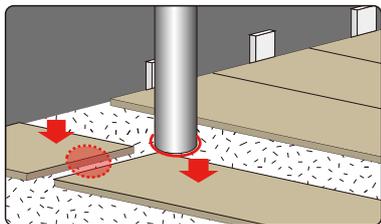


※当製品を取り外す際は、該当する1枚を持ち上げると、サネ部が破損します。
フロアを持ち上げる際は該当するフロアの列全体を外してから該当するフロアを外してください。

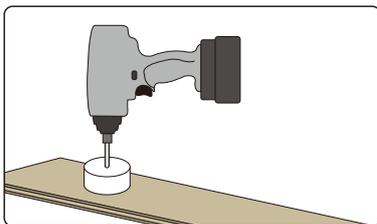
【加工に関して】

- ◆床板を切る際は、破片や切れ端が出ないようにして下さい。手のこぎりを使用する際は木目調装飾面（表面）を上にし、丸ノコを使用する際は木目調装飾面（表面）を下に向けて切ってください。
- ◆短辺の接合部分の位置は、板の長さの1/3程度ずらして配置してください。
- ◆当製品を切断する際には必ず保護メガネを着用してください。

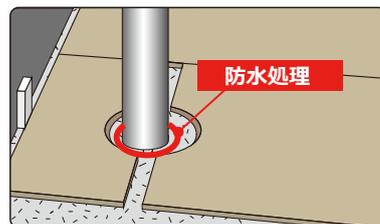
6、配管周りの処理は以下の要領で施工します。



穴を開けるフロアの位置を確認します。



配管口径よりも大きめに穴を開けます。

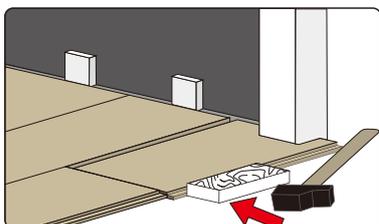


フロアをはめ込んだら、木口に防水処理を施します。

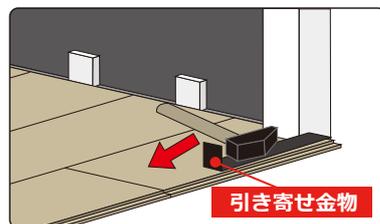
7、建具枠や柱が先付けされている場合は以下の要領で施工してください。



建具枠等を手鋸でカットします。



当て木をして玄能で軽く叩き、長辺のサネを水平にはめ込みます。

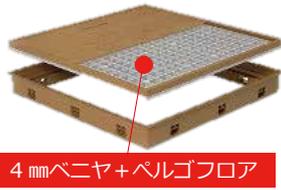


引き寄せ金具を使い、短辺のサネをはめ込みます。

納まり例



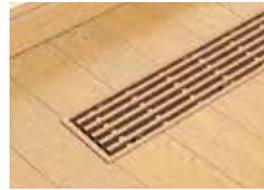
床下収納庫



4mmベニヤ+ペルゴフロア

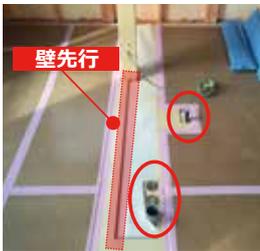
- 点検口の蓋は『4mmベニヤ + ペルゴフロア』
- ※1：クッションシートは不要です。
- ※2：蓋に取り付けるフローリングは釘打ちが可能です。
- ※3：点検口の「受け」は、現行通りの納まりで差し支えございません。

フロア用吸気ガラリ / フロアコンセント



- ※つばの大きな商品を選定してください。
- ※つば下でクリアランスを確保してください。
- ※ビスの絞めつけ過ぎにご注意ください。
- ※接着剤やテープでフロアの伸縮を妨げないようにしてください。

腰壁や間仕切壁



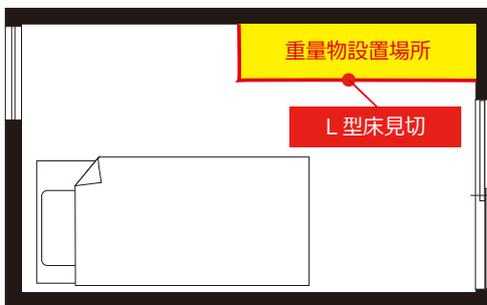
- 腰壁や間仕切壁
- ※腰壁や間仕切壁は、壁先行での納まりです。
- ※キッチンの配管位置にはフロアを離して施工してください。

トイレ床



- トイレの床で使用する場合
- ※床との取り付け合いに生じる隙間は必ずコーキング（耐水）で処理してください。

重量物設置予定がある場合



- 重量物の設置予定がある場合
- ※ピアノ、書棚など（※荷重350kg以上）
- ※重量物の設置区画のみ、縁を切ることで対応してください。

キッチン設置



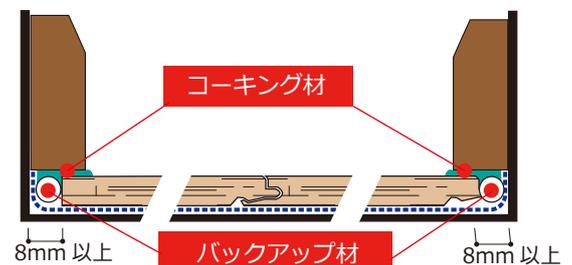
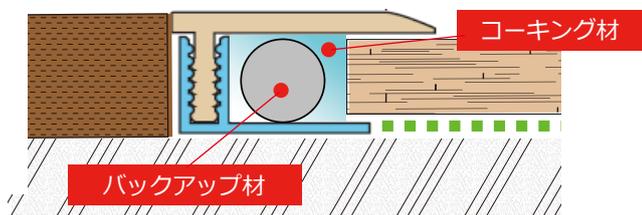
- キッチンを設置する場合
- ※キッチンや、パネルを床に固定する際はビス径より2mmから3mm程度大きな下穴をフロアに明け、下地に固定してください。
- ※ビスの絞めつけ過ぎに注意して施工してください。

センセーションシリーズの耐水処理

センセーションシリーズの端部の耐水処理には以下のような方法で行います。

1. クリアランスにバックアップ材を入れる（φ8mm程度）
2. コーキングを塗布する
3. 見切材のカバーもしくは、巾木をかぶせる

※バックアップ材を使用せず、クリアランスを全てコーキング材で埋めてしまうと、フロアの伸縮を妨げ不具合の原因となります。



STEP-8

スペーサーの取り外し



部屋の一边の長さ

クリアランス

8m未満

▶ 片側 4mm 以上

8m～13m未満

▶ 片側 8mm 以上

13m以上

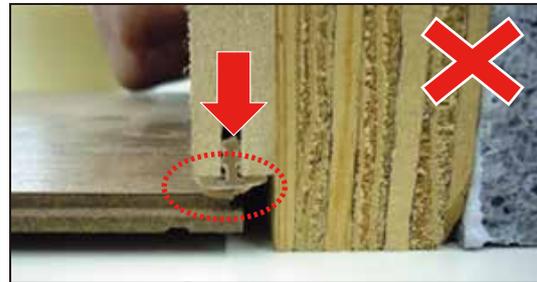
▶ T型見切り材で縁を切る

壁際のスペーサーを取り外します。

この際、各所で**適正なクリアランスを確保**できているか、今一度ご確認ください。

STEP-9

ドア枠・巾木の取り付け



ドア枠・巾木を設置する際

ドア枠や巾木でフロアを押しえつけることは厳禁です。(※伸縮の妨げになります。)

【重量物の設置について】

- ◆重量物がある場合には、重量物の際（きわ）にL型床見切を設ける、『縁切り』を行いクリアランスを確保してください。
重量物の目安 = m²当り 350kg を超えるもの（アップライトピアノ相当）

【ビスの固定について】

- ◆ビスをフロアに直に固定（クローゼットの下枠やレール / ドアストッパー / サッシ下枠など）することは以下の事由を除いて禁止です。
 - ①フロアのみビス固定する場合。⇒フロア厚 8mm 以内のビス固定であればフロアの伸縮を妨げることがありませんので取付けは可能です。この場合フロアの伸縮に準じて固定物が動きますので、可動に際して問題ない場合に施工してください。
 - ②外周部と同じ様に、ビス廻りにクリアランスが確保できる下穴をフロアに空けてから下地にビスを留める場合、ビスとフロアが接しない様に施工、ビスを締めつけてフロアの可動を妨げない様にビスを締める様にしてください。直接ビスでフロアを固定すると突き上げ、床鳴りの原因になります。

STEP-10

床の養生

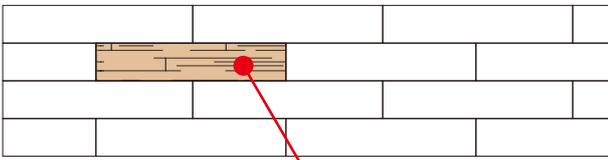


ペルゴフロアは極めて優れた耐久性を持つ製品ですが、「傷」や「ヘコミ」を完全に防げるわけではございません。施工後のトラブルを防止する為に、**養生は確実に行ってください。**

施工完了

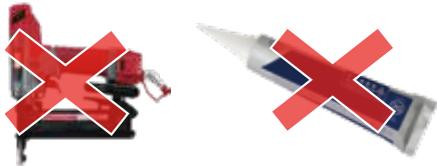
メンテナンス・補修ガイド

フロアが浮いてしまった



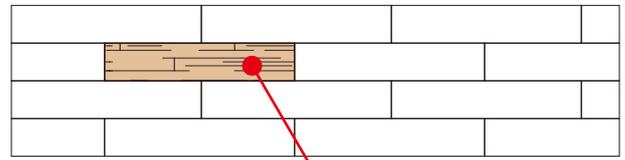
Check

- ①クリアランスは不足していませんか？
- ②糊や釘で留め付けていませんか？



「浮き」は伸縮が阻害されたことで発生するケースが非常に多い為、上記2点の再確認をお願いいたします。

部分的に欠けてしまった



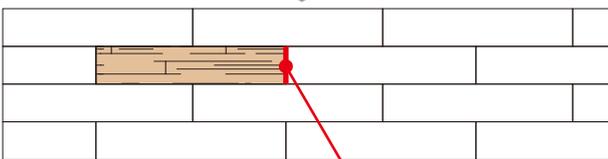
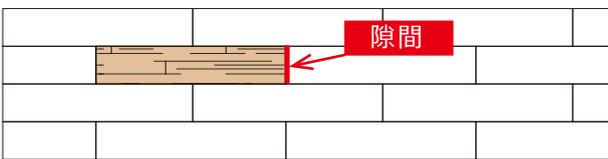
Repair



- ・ホットナイフ
- ・ハードワックス

一般的なフロアと同様、市販のリペアキットで補修できます。困難な場合にはリペア専門店にご相談ください。

隙間が空いてしまった

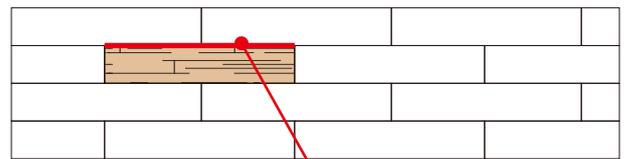


Repair



吸盤や両面テープを付けた端材を設置し、軽く踏みながらゴムハンマーで叩き、引き寄せます。

サネ部分から床鳴りがする



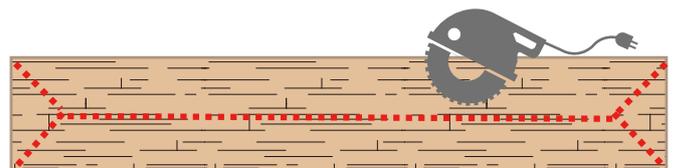
Repair



床鳴り防止剤を注入

※「ピキピキ」「パキパキ」という音の場合はフロアに原因がある場合が多いです。
(※サネのはめ込み不足など)

以上で直らなかった場合の部分張り替え



目違いが起きてしまった

上記の「隙間が空いてしまった場合の方法と逆手順でサネのジョイント部に隙間を空け、空いた隙間に接着剤を入れ、引き寄せます。引き寄せ後は再び目違いが生じないように接剤が固まるまで抑えて下さい。

上図のように切り込みを入れ、ボールなどで外します。サネ部分にだけボンドを塗って新しいフロアを貼ってください。張り替え方法は右のQRコードを読み込んで動画をご覧ください。



美装作業・注意事項

【清掃方法】

- ◆ホウキ、掃除機などでフロア表面のゴミを取り除いてください。
- ◆フロア表面以外の箇所（巾木、壁等）を養生してください。
- ◆中性洗剤をぬるま湯で希釈した洗剤液を作ります。
- ◆洗剤液を含ませたモップ、または雑巾を固くしぼり、フロア表面を拭いてください。
- ◆汚れが落ちない場合は、メラミンスポンジに少量の水を含ませ、擦り落としてください。

【注意事項】

- ◆多量に水を使用した水洗いは禁止です。
- ◆洗剤液用と、水拭き用のモップ・雑巾は別のもので使用してください。
- ◆洗剤液は完全に拭き取ってください。
- ◆フロア表面に洗剤液が残ると、白化の原因になります。
- ◆ワックスがけは禁止です。
ワックスを表面に塗布すると、油分が表面に残り、汚れが黒ずんで取れなくなる可能性があります。
- ◆つなぎ目やフロアの切断面から水分が浸透する場合があります。水濡れは材の膨れや汚れの原因となりますので、出来るだけ速やかに拭き取って下さい。

元請工事業者様へ注意事項

【フロア施工後の重量物、造作棚等の設置について】

- ◆重量物がある場合には、重量物の際（きわ）にL型床見切を設ける、『縁切り』を行い、クリアランスを確保してください。
重量物の目安＝㎡当り 350kg を超えるもの（アップライトピアノ相当）
- ◆ビスをフロアに固定することは、以下の事由を除いて禁止です。
 - ①フロアのみでビス固定する場合。⇒フロア厚 8mm 以内のビス固定であればフロアの伸縮を妨げることがありませんので取付けは可能です。この場合、フロアの伸縮に準じて固定物が動きますので、可動に際して問題ない場合に施工してください。
 - ②外周部と同じ様に、ビス廻りにクリアランスが確保できる下穴をフロアに空けてから下地にビスを留める場合。
ビスとフロアが接しない様に施工。この場合ビスを締めつけてフロアの可動を妨げない様にビスを締める様にしてください。
直接ビスでフロアを固定すると突き上げ、床鳴りの原因になります。

【引き渡し前の温熱、湿度環境について】

- ◆室内の温熱、湿度環境を適正に保ってください。
高温多湿な状態で、長期間喚起を行わない場合、フロアの不具合が発生する場合があります。

【水濡れに関して】

- ◆フロアの切断面は防水処理がされておりませんので、水分が多い場所（脱衣場と風呂場の間、サッシが結露する場所、店舗の入口、便器の廻りなど）にはフロア切断面に防水シーラーを施してください。
- ◆床表面に水をこぼした際は放置せず速やかに拭き取ってください。そのまま放置しますと、膨張、表面はがれの原因になります。
- ◆掃除などの際、床に水を撒かないでください。通常のお手入れは、固く絞った雑巾と掃除機で十分汚れが取れます。
- ◆トイレでご使用する場合、便器周りのフチ部分に尿石汚れが滞留し、サネ部分に入り込む恐れがあります。
フチ部分はコーキング処理を行ってください。

【耐久性や耐汚性に関して】

- ◆ペルゴフロアは強い耐傷性がありますが、傷がつかないわけではありません。
- ◆フロア表面には強い耐汚性がありますが、全ての汚れが付着しないわけではありません。
- ◆ナイロンキャストを使用した場合に砂や小石や硬いゴミ等で傷がつく場合があります。
- ◆土足での使用の場合、入り口にドアマットを敷いてください。
- ◆こびりついた汚れには市販のメラミンスポンジをご使用ください。
- ◆ワックスの使用は禁止といたします。
- ◆万が一、外的な衝撃によりフロアに欠けや割れが生じた場合には、壁際から床をはずし、ダメージのあるフロアのみ交換するか、床専門の補修業者（リペア業者）様に、パテ埋め、もしくはタッチアップ等にて補修していただくことを推奨いたします。
- ◆当製品は一般的な市販の洗剤に対する耐薬品性を持っておりますが、酸性の強い製品や塩素系の商品においては、長期間放置するとフロア表面に影響が出るものもありますので、出来る限り速やかに拭き取って下さい。（塩素系のタイプも同様です。）
- ◆汚れの多い場所で使用の際は、表面の凹凸部に汚れが入り込み、完全に拭き取れない場合があります。

【色や意匠性に関して】

- ◆ペルゴフロアの表層部分製造ロットにより微妙な濃淡が発生する場合があります。
- ◆実際の製品はサンプルやカタログと若干色味が異なる場合があります。あらかじめご了承ください。
- ◆同じデザインでも、表面の色合いに少々のバラつきがある場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- ◆フロア表面のデザイン柄においては、【1枚タイプ】【2枚継タイプ】【3枚継タイプ】の3種類があります。
- ◆デザイン上、外光により色味や風合いに濃淡を感じる場合があります。部屋を遮光した上で均一に照らし再度ご確認ください。

【施工完了時の確認事項】

- ◆巾木や建具等がフロアを押し付けることで、クリアランスを阻害していないか、再度ご確認ください。
- ◆クリアランス確保に使用したスパーサーが無いが、今一度ご確認ください。
- ◆サネ部分に隙間や、突き上げ、欠け、浮きといった不具合が発生していないか、今一度ご確認ください。
- ◆施工後には、上記をご確認の上、速やかに養生してください。
- ◆当製品は木質系床材であるため気候・使用室内環境等の温度・湿度の変化により伸縮し、きしみ音が発生する場合がございます。季節等による温湿度変化で治まることが多い為、一旦は経過を観察してください。

PERGO®

施工に関する動画や、詳細な取扱説明書（禁則、免責事項）は以下のリンクからご覧いただけます。

■ 動画集

ペルゴラミネートフロア施工イメージ

<https://www.youtube.com/watch?v=NeVRydToAVg>



はめ込み方法と取り外し方法

<https://www.youtube.com/watch?v=1ZR4DSMmEOK>



部分張り替えの方法

<https://www.youtube.com/watch?v=RuaZU1y6ixQ>



ペルゴフロア公式チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCVhpuGqHdOumaAPMBrJ3MeQ>
Website



HOKUSHU

施工マニュアル・カタログ・取扱説明書のデータダウンロード

<https://www.hokushu.net/kenzai/product/1076/>



株式会社北洲 PERGO営業部

【東京営業所】〒140-0013 東京都品川区南大井 6 丁目 16-4 戸浪大森ビル 3 階
TEL.03-6404-6750 FAX.03-6404-6751

【大阪営業所】〒545-6031 大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋 1 丁目 1-43 あべのハルカス 31F
TEL. 06-6625-5140 FAX. 06-7635-8452

【札幌営業所】〒001-0030 北海道札幌市北区北 30 条西 7 丁目 2-27
TEL. 011-738-0114 FAX. 011-738-0740

【福岡営業所】〒812-0016 福岡県福岡市博多区博多駅南 5 丁目 8-32 ナール博多駅南 203
TEL. 092-433-8555 FAX. 092-433-8558